

教育目標

- 健康な体と心を養います。
- 命を大切にする心を育てます。
- 互いに思いやる優しい心を育みます。
- 基本的な生活習慣・態度の基礎を培います。
- 一人ひとりの個性を伸ばし、感性を豊かに養います。

本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画を基に設定した学校評価の具体的な目標や計画

自主的に園生活を過ごし、興味関心を広げ、 集団としての共同と自立を養う

- 室内外の環境整備
- 廃材による製作研究
- 道具の使い方や素材について明確化し、子どもが安全に、また、作りたいものが作れるように環境を整え、指導していく。
- 収穫したものに興味を持ち、食べてみようとして試みる気持ちを育む。
- 情操を豊かにし、楽しんで表現することができ、人前でも自己表現できるように育てる。
- 体力を向上させ、空間認知や身体能力を高めていく。

評価項目の達成および取り組み状況

保育の在り方

A

- ・ コロナ禍の状況下、様々な政策に対応しながら、できることを模索し、例年とあまり変わらずに保育ができた。
- ・ 食事は前方を向いてしゃべらずに食べるということで、音楽を流したり、簡単なおにぎりやサンドイッチなどにしたり、すぐ食べられるものに変えたが、早くお弁当に戻してほしいという声があがり、また、パーテーションを購入してほしいとの声もあったが、机の幅等を考えてコロナ感染予防にはならないことを話し、理解を得た。

教師としての資質、保育の質向上

B

- ・ 日誌に写真を貼り付け、親向けに掲示することにより、園の教育やその日の出来事が親に伝わり、協力を得やすくなった。
- ・ 毎日、その日の出来事、子どものことを話し合い、ほかの教員の意見も参考にし、子どもと向き合うことができた。また、保育の振り返りもできたように思う。
- ・ 保育の中で気になったことをそのままにせず、話し合い、より良い方向を皆で考え解決し実践できた。
- ・ 研修に参加したときは、必要な事項を他の先生にも伝えるようにまとめた。
- ・ 子どもの興味の幅を広げたり、新しいことに挑戦したりできるよう、保育の環境を整え、廃材製作などの研究をし、努めた。
- ・ こどもの声が届かず、子どもの不満を親が伝えてくることがあり、クラスに入っている補助の先生とも話し合っていくよう指導した。

保護者への対応

B

- ・ 子どもたちの活動を写真で伝え、現状を理解してもらう努力をしている。
- ・ 話しにくい環境があるとのことで、下園時、園庭に皆が帰るまで担任はいるようにした。
- ・ 話す保護者に偏りがあった。判断の難しいことや分からないことは他の先生方に共有して対応した。
- ・ 子どもの課題を保護者にわかりやすく説明し協力を依頼した。
- ・ 園児につまずきがあったときは、保護者とよく話し合い、園内でも家庭と同じようにできることは協力し、園児が問題を乗り越えることができた。
- ・ コロナ感染予防のため、保護者に協力していただくことが増えたが、幼稚園として、保護者が幼稚園の行事のための仕事に対してはホールや会議室で活動できるように開放した。
- ・ 保護者がなかなか担任に言えないことがあるということで、意見箱を常時置くようにした。

学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

B

- 子どもが主体的に園生活を過ごせるよう環境を整え、保育を見直し、より子どもが興味関心を広げられるように教材研究をし、保育をした。また、一人一人に寄り添いながら、集団生活に難しさを感じる子どもに対し、全教員で把握し、一人の子どもに対して皆で支える意識が高まってきている。
- コロナ禍における環境を整備し、安心して園生活が過ごせるように全体で周知した。
- オンライン研修には積極的に参加し、報告し共有ができた。
- レックススポーツと協力して、子どもの運動する種目の目標を明確にできた。
- 遊びの時間、遊びの場所を増やし、好きな遊びを存分に楽しむようにした。
- 保護者からのアンケート結果を教員で話し合い、改善すべき点はすぐに改善していることに加え、日常的に反省点や改善点についても話し合いの場もたれている。

-
- A 十分に達成されている
 - B 達成されている
 - C 取り組まれているが成果が十分ではない
 - D 取り組みが不十分である
-

今後、取り組むべき課題

子どもの主体性を引き出す

前年度より、子どもがより自分の意志で行動し、子どもが幼稚園生活を仲間と築いていけるよう、支え、見守っていく
教員の言葉かけを減らし、自主的に動けるように導く

クラス連携の在り方

限られた保育室、園庭の中で子どもが自分でやりたい遊びができるように保育者の立ち位置の確認などしていきたい。また、異年齢交流を大切にし、育ちあえるものを育てていきたい。
教員同士の声の掛け合い、チームワークを大切にする。

素材・道具の研究および環境設定

物の正式名称から適した使い方など、まず保育者が正しく知り、そこから子どもが工夫できる環境になるようにしたい。子どもがわくわくするような手本を作り、使いやすい道具の設置を見出し、子どもの生活導線を考えていく。
製作をする前に、周囲の意見も参考にし、自信をもって活動に臨めるようにしておく。

子どもの視点を抑える

子どもの視点を着眼し、何に興味関心があるかを具体的に引き出し、カリキュラムを見直しつつ、興味関心が伸ばせる配慮を行っていく。

令和3年度 幼稚園教育目標

園生活を自主的に過ごし、思いや願いを叶える手段を知り、友達と共に生活を作り出す喜びを感じ、共同と自立を養う。

学校関係者評価委員の方の意見

- ZOOMにしたときに、どのご家庭にもWi-Fiの環境があったのか。もし、ないと言われた場合は、どのように対応していたのか。
- ➡ 絶対参加としなかったことと、ないという家庭にはこちらから電話して声を聞いたりコミュニケーションをはかったりしていた。
- 幼稚園の取り組みに対し、適正に評価されていることが分かりました。
- 保護者に幼稚園の教育を理解していただくために、日誌の掲示は大変だと思えますが、良いことだと思います。
- 令和3年度の教育目標がより具体化され、子どもなりに成長できる、目標を達成できるよう設定されたことが分かります。

令和2年度 学校関係者評価報告書

令和3年3月20日に学校関係者評価委員会(委員6名)を開催しました。

会議において詳細な令和2年度自己点検評価表を回覧し、評価委員との意見交換を行いました。

| 本年度の重点課題

自主的に園生活を過ごし、興味関心を広げ、集団としての共同と自立を養う

- 手遊びのレパートリーを増やして、子どもの楽しみを引き出した。
- 廃材で自由に物を作る遊びの中で、廃材製作が廃材にならないように研究し、提案し、提示した。そのため、ハサミなどの指導を改めて研究し、テープの活用法、テープの用途もきちんと明確化した。
- コロナ感染予防のため様々な行事ができなくなり、これを機に行事の見直しをし、子どもたちがゆとりある園生活を過ごすことによって見いだされる子どもの自主性、遊びの能力を引き出していくことを心がけた。

| 評価項目達成および取り組み状況

| 具体的な目標の総合的な評価結果

| 今後取り組む課題

| 学校関係者の評価